

令和元年度 三国中学校 学校評価

項目	具体的取組	評価の観点・目標指数	アンケート (設問と回答)		アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者
			人数	割合	人数	割合			
②生徒が主体的に取り組み、考えを伝え合い、高め合う授業の実現	授業に集中して取り組んでいるかどうか。(成果指標) 【目標指数】A+Bの合計が 90%以上	①学校の授業に集中して取り組んでいる。	計510人		A+Bが 96%	97%	生徒		
		A あてはまる。	308	60%					
		B どちらかといえば、あてはまる。	186	36%					
		C どちらかといえば、あてはまらない。	13	3%					
	家庭学習にしっかりと取り組んでいるかどうか。(成果指標) 【目標指数】A+Bの合計が 90%以上	②学校の宿題などの家庭学習に、毎日真剣に取り組んでいる。	計511人		A+Bが 89%	91%			
		A あてはまる。	268	52%					
		B どちらかといえば、あてはまる。	190	37%					
		C どちらかといえば、あてはまらない。	45	9%					
	学校の授業は、わかりやすいかどうか。(成果指標) 【目標指数】A+Bの合計が 80%以上	③学校の授業はわかりやすい。	計511人		A+Bが 95%	94%			
		A あてはまる。	213	42%					
		B どちらかといえば、あてはまる。	271	53%					
		C どちらかといえば、あてはまらない。	25	5%					
	基礎・基本を身につけようとする学校の学習指導について満足しているかどうか。(満足度指標) 【目標指数】A+Bの合計が 80%以上	④学校は、授業や家庭学習を通して、十分な学習指導を行っている。(小テストでの反復練習、テスト前の質問会、夏休みや冬休み中の学習会など)	計502人		A+Bが 85%	86%		保護者	
		A あてはまる。	115	23%					
		B どちらかといえば、あてはまる。	309	62%					
C どちらかといえば、あてはまらない。		47	9%						
D あてはまらない。		7	1%						
成果と課題	④小テスト後に、生徒へチャレンジ学習の取り組みの見直しを再度指導したため、ノートの内容はやや改善された。 ④テスト前の部活動中止期間が5日間は短く、学習会や質問会の時間がもてないときがある。								
	④基礎・基本の習得と学習理解の徹底のため、放課後の学習会が可能な日をテスト前の部活動中止期間に設定する。 ④課題の提出が滞る生徒に対して、教科の課題提出チェック表を担当も時々チェックし、課題の提出状況を把握する。教科担当者と担任が協力して声かけや指導をする。 ④チャレンジ学習の内容について、内容の良いチャレンジ学習を学年の廊下や教室に掲示することで、各個人のチャレンジ学習の取り組み方を生徒に紹介する。								
具体策	④基礎・基本の習得と学習理解の徹底のため、放課後の学習会が可能な日をテスト前の部活動中止期間に設定する。 ④課題の提出が滞る生徒に対して、教科の課題提出チェック表を担当も時々チェックし、課題の提出状況を把握する。教科担当者と担任が協力して声かけや指導をする。 ④チャレンジ学習の内容について、内容の良いチャレンジ学習を学年の廊下や教室に掲示することで、各個人のチャレンジ学習の取り組み方を生徒に紹介する。								
	④基礎・基本の習得と学習理解の徹底のため、放課後の学習会が可能な日をテスト前の部活動中止期間に設定する。 ④課題の提出が滞る生徒に対して、教科の課題提出チェック表を担当も時々チェックし、課題の提出状況を把握する。教科担当者と担任が協力して声かけや指導をする。 ④チャレンジ学習の内容について、内容の良いチャレンジ学習を学年の廊下や教室に掲示することで、各個人のチャレンジ学習の取り組み方を生徒に紹介する。								
②生徒が主体的に取り組み、考えを伝え合い、高め合う授業の実現	思考力・表現力を高める授業改善に取り組んでいるかどうか。(取組指標) 【目標指数】A+Bの合計 100%	①生徒が、主体的に取り組み、考えを伝え合い、高め合う授業づくりに努めている。	計32人		A+Bが 94%	97%	教職員		
		A あてはまる。	9	28%					
		B どちらかといえば、あてはまる。	21	66%					
		C どちらかといえば、あてはまらない。	2	6%					
	授業を公開しあい、授業改善に活かしているかどうか。(取組指標) 【目標指数】A+Bの合計 100%	②年間1回以上の授業公開を行い、他の教員の授業を参観している。	計32人		A+Bが 97%	91%	教職員		
		A あてはまる。	17	53%					
		B どちらかといえば、あてはまる。	14	44%					
		C どちらかといえば、あてはまらない。	1	3%					
	授業に主体的に参加することができているかどうか。(成果指標) 【目標指数】A+Bの合計 80%以上	③授業に前向きに参加し、他の生徒と意見や考えを伝え合うようにしている。	計511人		A+Bが 93%	87%	生徒		
		A あてはまる。	257	50%					
		B どちらかといえば、あてはまる。	219	43%					
		C どちらかといえば、あてはまらない。	33	6%					
	新学習指導要領に基づく、学校の学習指導に満足しているかどうか。(満足度指標) 【目標指数】A+Bの合計が 80%以上	④学校は、話し合い活動、実験や操作活動、視聴覚機器などを取り入れ、生徒の興味や意欲を高めるような授業づくりに取り組んでいる。	計502人		A+Bが 70%	68%	保護者		
		A あてはまる。	72	14%					
		B どちらかといえば、あてはまる。	281	56%					
C どちらかといえば、あてはまらない。		50	10%						
D あてはまらない。		96	19%						
E わからない。	3	1%							

確かな学力

令和元年度 三国中学校 学校評価

項目	具体的取組	評価の観点・目標指数	アンケート (設問と回答)		アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者
			人数	割合	人数	割合			
③読解力育成を目指した読書活動の推進	成果と課題		④話し合い活動、実験や操作活動、視聴覚機器などを取り入れた授業を行っているが、A+Bが70%と低い。						
	具体策		④学校公開等で保護者に多くの授業を参観してもらい、学習活動を見てもらう。 ④家での子どもの会話の中で、保護者が授業での様子を聞いてもらう。						
	朝読書の充実に努めているかどうか。 (取組指標) 【目標指数】A+Bの合計が 100%	①「朝読書」の時間の充実に努めている。	計30人		A+Bが 100%	96%	教職員		
		A あてはまる。	16	53%					
		B どちらかといえば、あてはまる。	14	47%					
		C どちらかといえば、あてはまらない。	0	0%					
	D あてはまらない。	0	0%						
	朝読書に意欲的に取り組んでいるかどうか。 (成果指標) 【目標指数】A+Bの合計が 80%以上	②「朝読書」の活動に集中して取り組み、月1冊(年間12冊)以上のペースで本を読んでいる。	計511人		A+Bが 84%	88%	生徒		
		A あてはまる。	328	64%					
		B どちらかといえば、あてはまる。	100	20%					
C どちらかといえば、あてはまらない。		56	11%						
D あてはまらない。	27	5%							
本などの活字に親しむ取り組みにまんざくしているかどうか。(満足度指標) 【目標指数】A+Bの合計が 80%以上	③学校は、毎日の朝読書、読書記録カードの記入、図書館の充実など、本に親しむ取り組みを行っている。	計502人		A+Bが 79%	87%	保護者			
	A あてはまる。	132	26%						
	B どちらかといえば、あてはまる。	267	53%						
	C どちらかといえば、あてはまらない。	35	7%						
	D あてはまらない。	9	2%						
E わからない。	59	12%							
成果と課題		②朝、とても静かに熱心に読書をしている様子が見られる。 ③今年度は、図書館の取り組み等をホームページに掲載するなど、保護者に理解してもらい取り組みをしたが、数字に反映されなかった。							
具体策		④今年度同様に、取り組みの内容や図書館だよりをホームページに掲載して啓発を図る。							
①挨拶を励行し、時間を守る礼儀正しい生徒の育成	挨拶や時間を守ることの重要性を理解し、生徒に対して積極的指導に取り組んでいるかどうか。(取組指標) 【目標指数】A+Bの合計が 100%	①挨拶、時間を守った学校生活についての指導を積極的に行っている。	計33人		A+Bが 100%	100%	教職員		
		A あてはまる	20	61%					
		B どちらかといえば、あてはまる	13	39%					
		C どちらかといえば、あてはまらない	0	0%					
	D あてはまらない	0	0%						
	挨拶の大切さを理解し、自分から積極的に挨拶をしているかどうか。(成果指標) 【目標指数】A+Bの合計が 90%以上	②自分から、進んで挨拶を行っている。	計511人		A+Bが 95%	93%	生徒		
		A あてはまる	344	67%					
		B どちらかといえば、あてはまる	145	28%					
		C どちらかといえば、あてはまらない	19	4%					
	D あてはまらない	3	1%						
時間を守ることの大切さを理解し、時間を守って学校生活を送っているかどうか。(成果指標) 【目標指数】A+Bの合計が 90%以上	③時間を守って学校生活を送ることができている。(ベル前着席など)	計511人		A+Bが 96%	97%	生徒			
	A あてはまる	267	52%						
	B どちらかといえば、あてはまる	224	44%						
	C どちらかといえば、あてはまらない	19	4%						
D あてはまらない	1	0%							
挨拶や時間など基本的な生活習慣の指導に満足しているかどうか。(満足度指標) 【目標指数】A+Bの合計が 90%以上	④学校は、挨拶や時間を意識した学校生活の指導を十分行っている。(生徒会の朝のあいさつ運動、ベル前着席の実施、学習習慣の指導など)	計502人		A+Bが 89%	90%	保護者			
	A あてはまる	179	36%						
	B どちらかといえば、あてはまる	265	53%						
	C どちらかといえば、あてはまらない	16	3%						
	D あてはまらない。	5	1%						
E わからない。	37	7%							

令和元年度 三国中学校 学校評価

項目	具体的取組	評価の観点・目標指数	アンケート (設問と回答)		アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者
			人数	割合	人数	割合			
豊 か な 人 間 性		成果と課題	②自分から挨拶できる生徒が7割近くを占めている。この割合を増やすためにも、今後も生徒会のあいさつ運動や部活動での指導を続けていく必要がある。						
		具体策	②今年度同様に、生徒会与連携して挨拶を盛り上げる活動を継続して行う。 ②休み時間や放課後において、教員から「目を見て、大きな声で、笑顔で」挨拶するよう生徒に促す。						
	②無言清掃の黙働を通し、自分を見つめ、心を磨く生徒の育成	毎日の無言清掃に生徒が意欲的に取り組むよう指導しているかどうか。(取組指標)	【目標指数】A+Bの合計が 100%	①毎日の清掃活動(無言清掃)に、生徒が時間いっぱい意欲的に取り組む指導を十分に行っている。	計33人		A+Bが 100%	100%	教職員
				A あてはまる	22	67%			
				B どちらかといえば、あてはまる	11	33%			
				C どちらかといえば、あてはまらない	0	0%			
				D あてはまらない	0	0%			
		毎日の無言清掃に積極的に取り組んでいるかどうか。(成果指標)	【目標指数】A+Bの合計が 90%以上	②時間いっぱい無言清掃に取り組むことができている。	計510人		A+Bが 98%	99%	生徒
				A あてはまる	359	70%			
				B どちらかといえば、あてはまる	141	28%			
C どちらかといえば、あてはまらない				8	2%				
清掃活動「無言清掃」の取り組みに満足しているかどうか。(満足度指標)		【目標指数】A+Bの合計が 80%以上	③学校は、清掃活動(無言清掃)の取り組みを通して、心を育てる教育で十分な効果を上げている。(おしゃべりや怠けを我慢する心、皆のためがんばる思いやりの心、汚れや周りの様子に気づく心、校舎への感謝の心など)	計502人		A+Bが 81%	83%	保護者	
			A あてはまる	150	30%				
			B どちらかといえば、あてはまる	255	51%				
	C どちらかといえば、あてはまらない		36	7%					
	D あてはまらない。		4	1%					
E わからない。	57	11%							
	成果と課題	②無言清掃は大変よくできている。今後も継続できるように指導する。							
	具体策	②掃除場所の担当教員は、良い取り組みをしている生徒を褒め、さらなる意欲向上につなげる。また、担任にも伝えることで、担任は良い手本として学級に紹介し、生徒の清掃への意識を高める。							
③いじめ・不登校の未然防止、早期発見・早期対応	いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応を常に意識し、迅速な報告、連絡、相談およびチーム対応をおこなっているかどうか。(取組指標)	【目標指数】A+Bの合計が 100%	①いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応を常に意識し、迅速なチーム対応に努めている。	計33人		A+Bが 97%	97%	教職員	
			A あてはまる	22	67%				
			B どちらかといえば、あてはまる	10	30%				
			C どちらかといえば、あてはまらない	1	3%				
			D あてはまらない	0	0%				
	いじめは絶対に許されない卑劣な行為であることを理解し、いじめを許さず、他者への思いやりや助け合いの心をもって学校生活を送っているかどうか。(成果指標)	【目標指数】A+Bの合計が 90%以上	②いじめを許さず、いじめに気づいたときはすぐに誰かに相談するようにしている。	計511人		A+Bが 94%	95%	生徒	
			A あてはまる	337	66%				
			B どちらかといえば、あてはまる	143	28%				
			C どちらかといえば、あてはまらない	23	5%				
	いじめや不登校についての未然防止策や早期発見・早期対応に満足しているかどうか。(満足度指標)	【目標指数】A+Bの合計が 80%以上	③学校生活でトラブルが発生した時、学校は適切に関わり、トラブルが解決するように努めている。	計502人		A+Bが 69%	69%	保護者	
			A あてはまる	88	18%				
			B どちらかといえば、あてはまる	255	51%				
C どちらかといえば、あてはまらない			47	9%					
D あてはまらない。			16	3%					
E わからない。	96	19%							

令和元年度 三国中学校 学校評価

項目	具体的取組	評価の観点・目標指数	アンケート (設問と回答)		アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者
			人数	割合	人数	割合			
	成果と課題		③「わからない」と答える保護者が多い。トラブルがない家庭の保護者は、記入しづらいのではないと思われる。						
	具体策		③今までと同様に、学期ごとのスタートチェックやいじめ悩み調査をもとに教育相談を行い、いじめや不登校の未然防止、早期発見に努め、学校でのトラブルに対して適切に関わっていく。 ③「わからない」「あてはまらない」に理由を書く欄を設け、今後の指導に役立てる。						
④ネット社会における情報モラルの向上	インターネットや携帯電話などについて、安全かつ適切な活用能力を身につける指導をおこなっているかどうか。(取組指標) 【目標指数】A+Bの合計が100%	①インターネットや携帯電話などの適切な使用について、指導を十分行っている。	計32人		A+Bが93%	94%	教職員		
		A あてはまる	11	34%					
		B どちらかといえば、あてはまる	19	59%					
		C どちらかといえば、あてはまらない	2	6%					
	D あてはまらない	0	0%						
	to22宣言を守り、インターネットや携帯電話などの安全かつ適切な使用について理解できたかどうか。(成果指標) 【目標指数】A+Bの合計が80%以上	②インターネットや携帯電話などについて、安全で適切な利用のしかたを理解し、to22宣言を守っている。	計510人		A+Bが81%	85%	生徒		
		A あてはまる	222	44%					
		B どちらかといえば、あてはまる	189	37%					
		C どちらかといえば、あてはまらない	71	14%					
	D あてはまらない	28	5%						
インターネットや携帯電話などの適切な使用についての指導に満足しているかどうか。(満足度指標) 【目標指数】A+Bの合計が80%以上	③学校は、インターネットや携帯電話などの適切な使用について、十分指導を行っている。(情報モラル教室の実施、道徳での情報モラル教育の実施、ネットの安全に関するチラシの配付など)	計502人		A+Bが79%	77%	保護者			
	A あてはまる	124	25%						
	B どちらかといえば、あてはまる	269	54%						
	C どちらかといえば、あてはまらない	48	10%						
	D あてはまらない。	24	5%						
E わからない。	37	7%							
成果と課題		②To22宣言やSNS宣言は出ているが、徹底できていない。家庭で使用するため、保護者の協力が必要不可欠である。							
具体策		④4月のPTA総会や学年懇談会など様々な場面で、To22宣言やSNS宣言、ネット利用についての話をする。また、PTAと連携し、保護者を巻き込んだ取り組みを行う。 ④年度始めに親子でルールを作り、1学期末の保護者会で担任が家庭での取り組みの様子を聞いたり、夏休みの生活の保護者記入欄に保護者からの評価を書いてもらったりする。							
①お互いの人権を尊重し、相手を思いやり、協力する学級・学校づくり	日々の教育活動を通して、望ましい人間関係ができるような集団作りに取り組んでいるかどうか。(取組指標) 【目標指数】A+Bの合計が100%	①日々の教育活動を通して、望ましい人間関係ができるような集団づくりに努めている。	計33人		A+Bが100%	100%	教職員		
		A あてはまる。	16	48%					
		B どちらかといえば、あてはまる。	17	52%					
		C どちらかといえば、あてはまらない。	0	0%					
	D あてはまらない。	0	0%						
	学校生活の中で、望ましい人間関係を作ることができているかどうか。(成果指標) 【目標指数】A+Bの合計が90%以上	②学校生活の中で、相手を思いやり、他の子と協力して様々な活動に取り組んでいる。	計511人		A+Bが97%	98%	生徒		
		A あてはまる。	356	70%					
		B どちらかといえば、あてはまる。	136	27%					
		C どちらかといえば、あてはまらない。	17	3%					
	D あてはまらない。	2	0%						
人権教育の充実を図り、思いやりや協力する気持ちを育てる学校の取り組みに満足しているかどうか。(満足度指標) 【目標指数】A+Bの合計が80%以上	③学校は、お互いの人権を尊重し、思いやりの心や協力する気持ちを育てる集団づくりを行っている。(Q-U(楽しい学校生活を送るためのアンケート)による集団の把握をおこない、合唱コンクールや学校祭などの行事を通してよりよい集団づくりに取り組んでいる。)	計500人		A+Bが87%	86%	保護者			
	A あてはまる。	124	25%						
	B どちらかといえば、あてはまる。	311	62%						
	C どちらかといえば、あてはまらない。	27	5%						
	D あてはまらない。	9	2%						
E わからない。	29	6%							

令和元年度 三国中学校 学校評価

項目	具体的取組	評価の観点・目標指数	アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者
			人数	割合			
健やかな体と心	成果と課題		②行事後の感想に、ほとんどの生徒が協力したことや楽しかったことを書いていた。 ③C、D、Eに回答した保護者に対して、学校の取り組みを知ってもらう活動が必要である。				
		具体策	①今まで以上に各教科等において、生徒たちが人権について考える機会を増やす。(人権作文(夏休みの課題)の利用や図書委員会のおたよりで人権に関する本の紹介をする等) ①人権週間に各学年一斉に人権ビデオを視聴する。				
	居心地のよい学級づくり(居場所づくり)や仲間づくり(絆づくり)を意識し、道徳や特別活動の時間を有効に活用し、自己有用感を高めるよう努めているかどうか。(取組指標) 【目標指数】A+Bの合計が 100%	①道徳または特別活動の授業を保護者に公開し、一人一人が安心でき、所属感のある学級づくり、集団づくりに努めている。	計26人		A+Bが 100%	100%	教職員
		A あてはまる。	12	46%			
		B どちらかといえば、あてはまる。	14	54%			
		C どちらかといえば、あてはまらない。	0	0%			
	学校には自分の居場所があり、自分が必要とされていると感じているかどうか。(成果指標) 【目標指数】A+Bの合計が 90%以上	②学校では楽しく過ごし、教室は居心地が良い場所だと思う。	計511人		A+Bが 92%	92%	生徒
		A あてはまる。	315	62%			
		B どちらかといえば、あてはまる。	152	30%			
		C どちらかといえば、あてはまらない。	30	6%			
道徳や特別活動を通した望ましい集団づくり(居場所づくりや絆づくり)の取り組みに満足しているかどうか。(満足度指標) 【目標指数】A+Bの合計が 80%以上	③学校は、道徳でよりよい集団のあり方などについて話し合ったり、体育祭や部活動などの異学年交流を通して絆づくりに努めたり、よりよい学級づくり、集団づくりに取り組んでいる。	計502人		A+Bが 85%	82%	保護者	
	A あてはまる。	119	24%				
	B どちらかといえば、あてはまる。	304	61%				
	C どちらかといえば、あてはまらない。	27	5%				
	D あてはまらない。	7	1%				
成果と課題	①中学生の時期は人間関係での悩みやトラブルが多くみられる時期である。2年生では、年間を通してピアサポートの授業を行い、生徒の仲間づくりに役立った。						
	具体策	①2年生の取り組みを全学年に広げ、ピアサポートに取り組む。					
③保健・安全教育と食育による健全な身体づくり	生徒の心身の健康に注意を払い、子どもの安全確保や保健・安全教育および食育に取り組んでいるかどうか。(取組指標) 【目標指数】A+Bの合計が 100%	①生徒の心身の健康に注意を払い、保健・安全教育や食育の推進に努めている。	計33人		A+Bが 100%	97%	教職員
		A あてはまる。	18	55%			
		B どちらかといえば、あてはまる。	15	45%			
		C どちらかといえば、あてはまらない。	0	0%			
	自分自身の心身の状態に関心を持ち、健康で安全な生活を送るよう心がけているかどうか。(成果指標) 【目標指数】A+Bの合計が 90%以上	②自分自身の心や体の状態に関心を持ち、規則正しい生活を送るよう努めている。	計511人		A+Bが 90%	93%	生徒
		A あてはまる。	273	53%			
		B どちらかといえば、あてはまる。	191	37%			
		C どちらかといえば、あてはまらない。	44	9%			
	子どもの安全確保や健康管理のための学校の取り組みに満足しているかどうか。(満足度指標) 【目標指数】A+Bの合計が 80%以上	③学校は、子どもの安全確保や健康管理のための取り組みを十分に行っている。(交通安全教室・街頭交通指導・思春期教室などの実施、保健だより・給食だよりなどの配付やホームページへの掲載)	計502人		A+Bが 89%	85%	保護者
		A あてはまる。	128	25%			
B どちらかといえば、あてはまる。		322	64%				
C どちらかといえば、あてはまらない。		24	5%				
D あてはまらない。		3	1%				
E わからない。	25	5%					

令和元年度 三国中学校 学校評価

項目	具体的取組	評価の観点・目標指数	アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者
			人数	割合			
		成果と課題	②意識の低い生徒や健康に関して困り感が少ない生徒、厳しい自己評価をする生徒など、生徒によって回答する判断基準の違いに差がみられる。				
		具体策	②アンケートの表現を変更「関心を持ち→気づき 努めている→に心がけている」し、評価の際に、担任からアンケートの内容の趣旨について説明する。 ③保健だよりや給食だよりの配布時に、読んでほしい内容に焦点を絞って担任が指導する。				
①学校だより、ホームページ等による積極的な情報発信	教職員が、学校だよりやホームページ等で積極的な情報発信を行っているかどうか。 (取組指標) 【目標指数】A+Bの合計が90%以上	①学校だより(学年通信、生徒指導部だより、保健だより、図書館だより)やホームページ等を通して積極的に情報を発信している。	計32人		A+Bが91%	91%	教職員
		A あてはまる。	17	53%			
		B どちらかといえば、あてはまる。	12	38%			
		C どちらかといえば、あてはまらない。	3	9%			
		D あてはまらない。	0	0%			
	生徒が、学校だよりやホームページ等に行事予定や活動の様子が掲載されていることを理解し、利用しているかどうか。 (成果指標) 【目標指数】A+Bの合計が80%以上	②学校だより(学年通信、生徒指導部だより、保健だより、図書館だより)を読んで行事の予定などの情報を得たり、ホームページで活動の様子を見たりしている。	計511人		A+Bが62%	71%	生徒
		A あてはまる。	105	21%			
		B どちらかといえば、あてはまる。	212	41%			
		C どちらかといえば、あてはまらない。	134	26%			
		D あてはまらない。	60	12%			
	保護者が、学校だよりやホームページ等から教育活動に関する情報に満足していることができるか。(満足度指標) 【目標指数】A+Bの合計が80%以上	③学校は、教育活動を適切に伝えている。(学年通信、生徒指導部だより、保健だより、図書館だより、ホームページ、安全安心メールなどで)	計502人		A+Bが90%	91%	保護者
		A あてはまる。	169	34%			
B どちらかといえば、あてはまる。		283	56%				
C どちらかといえば、あてはまらない。		28	6%				
D あてはまらない。		2	0%				
	E わからない。	20	4%				
	成果と課題	①ホームページ担当者が週2～3回程度更新しているが、更新作業が部活動終了後のため教員の負担が多い。 ②おたより等は、担任からの簡単な読み合わせの後に配布しているため、今後の予定など必要な情報については理解している。 ③生徒は、粗い画像で人物が特定できない写真より、教室や廊下等に掲示してある鮮明な画像を見るため、ホームページで活動の様子を閲覧する必要性をあまりもっていない。 ③ホームページの更新を増やした。学校行事や学年行事など、活動の様子を数多く掲載することで保護者の閲覧数が増えた。					
	具体策	①ホームページ用のソフトを購入し、担当者を増やす。 ①ホームページ更新の仕事がしやすいように、PDFの状態まで各行事担当者が行うことにより、担当者の負担を減らす。 ③今年度同様にホームページの更新を継続して行う。					

令和元年度 三国中学校 学校評価

項目	具体的取組	評価の観点・目標指数	アンケート (設問と回答)		アンケート結果		判定結果	昨年度	回答者	
			人数	割合	人数	割合				
信頼される学校	②家庭・地域・他校種への学校公開を充実	学校として、学校公開を積極的に行っているかどうか。(取組指数)	①学校公開の際には保護者から信頼を得ることを意識し、授業や学校行事に取り組んでいる。	計33人			A+Bが100%	100%	教職員	
		A あてはまる。		22	67%					
		B どちらかといえば、あてはまる。		11	33%					
		C どちらかといえば、あてはまらない。		0	0%					
		D あてはまらない。		0	0%					
		【目標指数】 A+Bの合計が 100%								
		生徒が、学校公開の目的を理解し、信頼される三中生となるよう努めているかどうか。(成果指数)	②学校公開(授業参観、部活動参観、合唱コンクール、体育祭、文化祭)の時には、授業や行事に積極的に取り組み、信頼される三中生となるようがんばっている。	計511人			A+Bが94%	95%	生徒	
		A あてはまる。		293	57%					
		B どちらかといえば、あてはまる。		189	37%					
		C どちらかといえば、あてはまらない。		23	5%					
D あてはまらない。		6	1%							
【目標指数】 A+Bの合計が 90%以上										
保護者が、学校公開による教育活動の公開に満足しているかどうか。(満足度指数)	③学校は、学校行事や授業など、教育活動を積極的に公開している。(合唱コンクール、体育祭や文化祭、学校公開による授業公開、部活動参観、給食試食会など)	計502人			A+Bが96%	96%	保護者			
A あてはまる。		251	50%							
B どちらかといえば、あてはまる。		231	46%							
C どちらかといえば、あてはまらない。		12	2%							
D あてはまらない。		1	0%							
E わからない。		7	1%							
【目標指数】 A+Bの合計が 90%以上										
成果と課題		③公開できるすべての活動、行事について、おたよりによる案内を配布している。今年度は、行事が近くなると、保護者一斉メールでも連絡するようにした。 ③たくさんの学校公開を行っており、保護者の満足度も高くなっている。								
具体策		③次年度も今年度同様に、積極的に学校公開を行う。								
③「地域と進める体験推進事業」の推進により、ふるさと三国に誇りや愛着を持つ生徒の育成		教職員が、「地域と進める体験」の目的を理解し、事業推進に努めているかどうか。(取組指数)	①ふるさと三国に誇りや愛着を持つ生徒の育成に努めている。	計33人			A+Bが97%	100%	教職員	
		A あてはまる。		19	58%					
		B どちらかといえば、あてはまる。		13	39%					
		C どちらかといえば、あてはまらない。		1	3%					
		D あてはまらない。		0	0%					
		【目標指数】 A+Bの合計が 100%								
		生徒が、ふるさと三国に誇りや愛着を持つようになったかどうか。(成果指導)	②ふるさと三国に誇りや愛着があり、地域に役立つことをしたいと思う。	計511人			A+Bが89%	90%	生徒	
		A あてはまる。		230	45%					
		B どちらかといえば、あてはまる。		224	44%					
		C どちらかといえば、あてはまらない。		37	7%					
D あてはまらない。		20	4%							
【目標指数】 A+Bの合計が 90%以上										
保護者が、ふるさと三国に誇りや愛着を持つ生徒を育成するための取り組みに満足しているかどうか。(満足度指導)	③学校は、ふるさと三国に誇りや愛着をもつ生徒を育成するための取り組みを十分に行っている。(修学旅行や校外研修でのふるさとPR活動(2,3年)、三国いいところ発見での地域学習(1年)、三国祭りへのボランティア参加など)	計501人			A+Bが94%	95%	保護者			
A あてはまる。		206	41%							
B どちらかといえば、あてはまる。		266	53%							
C どちらかといえば、あてはまらない。		8	2%							
D あてはまらない。		0	0%							
E わからない。		21	4%							
【目標指数】 A+Bの合計が 90%以上										
成果と課題		①3年間を見通し、系統的に活動を計画しているため、教職員の意識も向上している。 ②昨年度同様、生徒はふるさと三国に対する意識が高い。 ③各学年の様々な取り組みを学校だよりやホームページで紹介しているため、保護者も「ふるさと教育」への意識が高いと考えられる。								
具体策		①活動の目的を教員自身がしっかりと理解し、生徒にも継続して伝えていく。 ①今後も、3年間を見通した系統的な指導計画を考え取り組んでいく。 ③学校だけの取り組みに終始せず、地域や保護者と連携して活動機会を増やす。								